

作目名	メロン
-----	-----

作型名	ハウス栽培（高冷地）
-----	------------

月 旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		品種	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		上
高冷地 ハウス 栽培																									アールス 雅	

○ は種 △定植 ■ 収穫

○技術体系設定の前提条件

(1) 対象地域

郡上、下呂、飛騨

(2) 立地条件

①気象条件

夏期冷涼で気温の日較差が大きい地帯で、日当たりがよく、暴風雨の影響が少ない圃場を選ぶ。

②ほ場条件

通気性、排水性がよく、有機質に富んだ地力のある土壌が適する。特に、土壤水分については、地表排水を良くするためハウス周囲には排水溝を完備するとともに、生育期、成熟期等の作期に応じて土壤水分が調整しやすい土作りが必要である。

③栽植株数（10a当たり）

2,000本

(3) 目標収量（10a当たり）

3 t

○施肥基準

(1)施肥基準量（10a当たり・kg）

施肥成分	総量		基肥	追肥						
				1	2	3	4	5	6	
窒素	化学肥料由来									
	有機質肥料由来	7	7							
りん酸	10		10							
加里	7		7							

【施肥設計及び施肥上の注意事項】

- 1 完熟堆肥は除塩を十分行ったものを使用し、土壌改良剤は土壌調査結果に基づいて使用量を決定する。
- 2 施肥設計にあたっては、堆肥中の有効成分を測定し、それを施肥基準から差し引き肥料の施用量を決定する。
- 3 前作の残存量を調べ基肥の調整を行う。
- 4 水田転換畑では、基肥の施肥量を減らす。